



しんじょうやまだより

平成 30 年 4 月 26 日発行

放射線科

一般撮影システム CR から FPD への更新について

現在、当院の一般撮影システムはフィルムに代わる画像装置として人体を透過した X 線を媒体である CR（コンピューテッドラジオグラフィー）プレートに記憶させ処理装置で読み取り画像にするデジタル方式で撮影しています。

しかし、昨今は人体を透過した X 線を瞬時に電気信号に変換し、画像にするフラットパネルディテクター（FPD）方式に移行しています。FPD の特徴は高感度であり従来の CR システムと比較して最大 50% 減の放射線量で同画質の画像が得られるため、少ない放射線量で撮影可能な分、人体に受ける被曝線量が低減します。

また、撮影画像の確認が X 線照射後 2 秒以内で可能となるため、検査終了時間が短くなり患者様の待ち時間の短縮が期待されます。

尚、一般撮影システムの更新作業は、平成 30 年度に一期、平成 31 年度に二期と分散して行うこととしています。



緩和ケア委員会です

年度も変わり新しいスタッフも増えました。

私たち緩和ケア委員会では、がん患者さんのさまざまな苦痛を少しでも和らげ、QOLを高めるために活動しています。

まだ未熟な私たちですが、1 歩 1 歩前進しています。

私たちチームは医師・看護師・メディカルスタッフそれぞれの視点から「今、できること」を考えています。

皆さんもチームの一員として患者さんの苦痛を和らげていきましょう。

ご不明な点は緩和ケアスタッフまでお申し付けください。